



みらいつうしん

1月号

2023年1月10日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子



新年あけましておめでとうございます

2023年は、元旦から良いお天気に恵まれ、穏やかなお正月となりました。

今年は卯年ということで、暦などで調べてみますと、「芽を出した植物が成長して行き、茎や葉が大きくなる時期=すなわち、努力して積み重ねたものが、開化し実る年」と言われています。世の中は、久し振りの行動制限のない年末年始を送ることが出来ましたが、引き続き新型コロナウイルスの影響で、困難は続き、地道な努力や忍耐が必要です。卯年の人は、高い目標を持ってチャレンジ精神が旺盛というイメージがあります。ウサギのように、ピョンピョン跳んで、飛躍の年にしていきましょう。私たち職員一同も、今まで以上に園児一人一人に心を配り、遊びの環境を整え、質の高い教育・保育ができるよう努力して参ります。本年も園の方針をご理解いただきご協力をよろしくお願いいたします。

さて、子ども達の様子に目を向けますと、寒さに負けず、好きな遊びを見つけては夢中になっています。より遊び込む姿が見られ、遊びを通して学ぼうとする強い意欲が芽生え、目標や工夫、そして、友達とのやり取りから信頼や思いやりも育っていて逞しささえ感じます。昨年話になりますが、12月中旬に、田園調布学園大学の3年生が、大学で育てたサツマイモとツルのリースを持参して遊びに来てくれました。リースに興味をもったにじ組のお友達は学生さん達とリース飾りをして楽しみました。また、12月末には、田園調布学園大学の仙田先生とゼミの学生代表が、みらいこども園の子ども達に、DCU 自家製の野菜とメッセージカードを届けていただきました。子ども達は、「クリスマスプレゼントだ!」「葉っぱに虫がいるよ。虫までプレゼントしてくれたよ!」「すごーい」「美味しそう」と、大喜び! 突然の贈り物にびっくりしていました。その後、給食の調理の方に給食のメニューに取り入れていただき美味しく頂きました。そして、感謝の気持ちを手紙に書きたいということになり、書き始めたところ、それはそれはたくさんメッセージと絵が描かれていて、子ども達の相手の気持ちを受け止め応える姿勢がしっかり育っていることに、嬉しさを超え感銘を受けました。DCUの学生さんたちも、温かいメッセージと写真を受け取り、園児たちの心が伝わり感動していただきました。今後も大学との交流をより深めていき、子ども達にとってもより豊かな環境を作っていきたいと考えています。今回の出来事は、子ども達と学生の間には笑顔が沢山ありました。今、思いっきり笑える世の中ではありませんが、スマイルは、人を幸福にする力があります。お互いを理解し合うきっかけになり、それぞれが幸せな気持ちになりました。

子ども達にとって、生きた体験は、将来大人になった時に必ず役に立ちます。これからも、みらいこども園は、人との関わりと主体的な環境を大切にして参ります。

